

授業概要

中等教育における社会科・地歴科に関する内容、課題を理解し、教員としての基礎的教育能力を養い、資質を高めることを目的とする。学習指導要領に示された各科目の目標と内容、課題を踏まえ、Ⅱでは模擬授業を中心とした講義を行う。学習指導案を作成し、模擬授業を行い、実践的学習を通し、教育技術の向上、問題意識の啓発、評価方法の習得をめざす。模擬授業は情報機器を用いて行う。受講者間での全体討議を行いながら相互に資質の向上を図る。教授方法を学ぶのみならず、とくに社会科・地歴科科目に内在する問題点、教科指導のあり方を実地に考察する。

授業計画

第1回	ガイダンス：社会科・地歴科教育教員を志すにあたり
第2回	高等学校地歴科の内容とその取り扱い
第3回	高校地歴科教科書の分析
第4回	模擬授業実施にあたり
第5回	学習指導案の作成と検討①：年間学習計画と学習指導案とは
第6回	学習指導案の作成と検討②：授業指導案の書き方
第7回	情報機器を使つての授業の進め方
第8回	模擬授業の実施①（各人50分の模擬授業を行い、全体討議・講評を行う）
第9回	模擬授業の実施②（各人50分の模擬授業を行い、全体討議・講評を行う）
第10回	模擬授業の実施③（各人50分の模擬授業を行い、全体討議・講評を行う）
第11回	模擬授業の実施④（各人50分の模擬授業を行い、全体討議・講評を行う）
第12回	模擬授業の実施⑤（各人50分の模擬授業を行い、全体討議・講評を行う）
第13回	模擬授業の実施⑥（各人50分の模擬授業を行い、全体討議・講評を行う）
第14回	模擬授業の実施⑦（各人50分の模擬授業を行い、全体討議・講評を行う）
第15回	授業のあり方と評価
第16回	筆記試験

到達目標

後期の課題は実際に授業を組み立ててもらふ。そのためには学習内容を把握し吟味する教材研究が必要となる。しっかりとした学習指導案を作成することがまず第一歩となる。模擬授業をおこない、授業検討会の中で、自己の問題点を発見してもらい、その中で自己の課題解決に取り組んでもらうことにする。

履修上の注意

出席が不規則であったり遅刻がある者、講義中に私語・私事が多い者は評定を厳しく扱う。また、模擬授業を行うことが単位修得の必須事項となる。模擬授業の前週に、完成させた指導案をもとに講義とは別に個別指導をおこなう。

予習・復習

模擬授業のための授業指導案の作成は、内容の検討把握をおこなった後、十分に検討を重ねるようにする。各自模擬授業を行う以前に、あらかじめ時間を図りながらシミュレーションを行う。模擬授業終了後、総括討議を踏まえ、自己の課題をまとめておく。

評価方法

試験(40%)、模擬授業(40%)、全体討議作業課題(20%)などを総合的に評価する。模擬授業を行わなかったり、準備不十分の場合は、単位の習得が見込めなくなるので注意するように。

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』
 高等学校日本史B・世界史B教科書（高校の時に使った物）。その他、必要に応じ適宜資料を配付する。